

カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）

〒730-0016

広島市中区幟町4番42号

TEL (082)221-0621

FAX (082)221-8486

<http://www.nobori-cho-catholic.com>

主任司祭：後藤正史神父

協力司祭：アルベルト神父

インマヌエル：私たちと共にいる神

ベッラ・アルベルト神父



クリスマスはイエス・キリストの誕生を記念する日です。イエスも、すべての子供と同じように、女性（マリア）から生まれました。当時のユダヤ人たちも、その事をよく知っていました。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々は、その父も母も知っている」と話していたと、ヨハネは福音書に書いています。

（ヨハネ6, 42）強情なユダヤ人たちは、イエスをメシアとしては認めませんでした。イエスが普通の人間であることを認めない訳にはいきません。

実は、神様が人となられた事がクリスマスの神秘の意味なのです。

神様はいろいろな姿でこの世に現れる事が可能でありました。稲妻のように直接に天から降りられること、または私たちの夢の中に直接に現れる事、さらにはこの世で一番強く力を持っている家族の中に生まれる事も可能でした。

しかし神様はそのような姿や方法を選ばれませんでした。そして神様は、本当の人

間となりました。これがクリスマスの意味、即ち受肉の神秘的なのです。

神様はキリストによって、罪以外は総て人間と同じようになられたのです。

すべての宗教は、自分たちの神様に祈りと、捧げ物を捧げるときに、その神の存在を認めます。同時に神様と人間の間に距離を置きます。

しかしクリスマスは神様ご自身がイエスという人になることによって、神と人間の間の距離をなくす事をされたという意味なのです。

イエスはまた、インマヌエル（私たちと共にいる神）と呼ばれて人間の友達になら

れました。私たちは神様を断ることがあるにもかかわらず、神様は人間を最後まであきらめられる事はありません。

クリスマスは、神様が困っている人間を一度も見捨てられることはない事を教えてください。

皆さん、クリスマスおめでとうございます。



列福式参加者からの 感動の分かち合い①

11 月 24 日に長崎で行われた日本人殉教者の列福式に幟町教会から参加された方からの感動された想いを紙上で分かち合いたいと思います。

ペトロ岐部と 187 殉教者列福式に参加

KO

会場の長崎ビッグ N スタジアムは日本国内、アジア地域（ベトナム・フィリピン・台湾・韓国）から参加した信者で埋まっていた。約三万人。小雨は止んでいるが、空は雨雲におおわれたままである。式中の空模様を心配する。正午過ぎ、鐘の音の合図で式が開催された。赤い祭服を着た司祭・主教団が、祭壇に安置された 188 人殉教者の聖遺物に拝礼して着席する。まもなく参加者全員で、回心の祈り、あわれみの賛歌が歌われる。聖なる列福式が始まる。列福宣言の要請、殉教者の略歴紹介があり、殉教者ゆかりの各教区の司教がその地の殉教者の紹介をしていた。

その時、にわかに雷が鳴り、空が明るく



なってつかの間、陽が差した。私には天使の角笛の音に聞こえ、この祭儀を神が祝福しているように思い、体が震えた。



終わるまで雨は降らなかった。広島教区は、三末司教様から萩・山口のメルキオール熊谷豊前守元直、ダミアン、広島のフランシスコ遠山甚太郎、マチアス庄原市左衛門、ヨアキム九郎右衛門の 5 名が紹介された。教皇書簡が朗読され、1603 年から 1639 年に殉教したペトロ岐部と 187 人の尊者が福者の列に加えられると宣言され、毎年 7 月 1 日に祝うことが決められた。式壇正面に吊り下げられた肖像画の除幕が行われた後、ペトロ岡田東京大司教が、日本全教会の信者を代表して、ベネディクト 16 世教皇聖下に、188 人の尊者を福者の列に加えて下さったことへの謝辞が述べられた。続いて参加者全員で感謝ミサを奉げて閉祭。

およそ 400 年前、未だ武家政治は全盛で、全国にキリスト教禁教令が布告されていた。今日、福者の列に加えられた 188 人の殉教者は、その世相の中でカトリック信者になって、神のみことばを生涯守り通した。主への希望を信じ、神が味方であるならば、神の栄光のすべてのものを自分たちに下さらないはずがないと信じて殉教への道を歩んだ。現代に生きる私たちが困難なときにも聖霊の助けに信頼し、キリストに従い、あなたへの道を歩むことができますよう祈ります。(次号は HM さんからの報告です。)

「平和の使徒」の課題

KA (東雲地区)

9月中旬に北海道の教会を訪問した際、池田教会で主任神父にお会いし、教会巡礼で回っていますと言ったら、次の柏林台教会まで車で送っていただきました。そこから巡礼485番目の帯広教会までは信者さんが送ってくれました。そこで先ほどお会いしたカバツオラ主任神父さんの言われるには、共同司牧といって5つの教会を、3人の司祭が共同で司牧しているというような形態のところ、あちこちにあり、絶対に司祭の不足が生じているとのことでした。「教会はまさに福音を宣べ伝えるために存在している。」(教皇ヨハネ・パウロ二世)と言われる教会で、福音を宣べ伝えるべき使命を担った司祭が教会(聖堂)の数にも足りないということは憂慮すべき現象です。

旧約のイスラエルの民は「伝えること」を最大の掟にしました。申命記4・9 平和の使徒になることは、信徒がどうやって宣教するか、ということが最大の課題でもあります。

歴史的事実を振り返ってみると、宣教師が足りない16、17世紀のキリシタン時代に宣教師が不在の教会や、共同体を世話する「看坊」が存在していたとのことでした。

現在札幌地区では、信徒の「要理担当者養成講座」が始まったとのことでした。神学校を卒業された優秀な神学博士である司祭の力量には及ばないかも知れませんが、宣教競走に人材の量不足で負けないためにも、一般信徒も参加が可能になる平和の使徒養成講座の開設が待たれる現今です。

初聖体おめでとうございます。

11月30日に9人の子どもたちが初聖体を受けられました。

やや緊張気味の子どもたちは、ぎこちないながらも、初めてイエス様の体を感じ、喜びを感じている様子でした。



1 1月の運営委員会から

1. 報告事項

- ① カトリック会館執務室カーペット張替え
201、203号室の張替え完了
- ② バザー報告(11/2)
幟町教会への献金額を決定
- ③ 日曜学校黙想会・クリスマスパーティー
☆ 黙想会 12月14日(日)
☆ クリスマスパーティー
12月21日(日) マリアホール

2. 議題

- ① 暖房ボイラー送風機、ダクト他の整備
 - 送風機のベアリングの油、フィルター交換、掃除で見積が出ています。
 - これからの暖房設備について教区とも協力し委員会を立ち上げてはどうか。
⇒今回は、幟が経費を出し実行する
- ② 教会新年会
 - クリスマス片付けもあり年始の忙しい時期なので、親睦の意味での開催ならば無理にしなくても良いのではないかな。
 - 25日に教区のパウロ年の祝賀会があるのでやらなくても良いのではないかな。
⇒クリスマスの片付けは1月11日(日)にする。新年会については次回幹事会で検討。
- ③ 幟町教会の葬儀相談窓口
 - 費用の相談などがあるので、葬儀委員会を立ち上げてはどうか。
 - これから運営委員会でやり方を考えていく。岡山などすでに組織があるところから資料を取り寄せる。 ⇒継続審議
- ④ 聖堂開放時間
 - 月～土曜は20時、日曜は19時まで。
 - 冬の時期は早く暗くなるので、早く閉めたい。お祈りに来られる方のために聖母祭壇は開けておきたいが、聖母祭壇と大聖堂の間には鍵がないため鍵が必要。
(鍵設置済み)
 - 信者としては、18時くらいまではあけていて欲しい。 ⇒主任神父様に一任。
- ⑤ 地区会、ブロック会の開催促進
 - 今年度は、現時点で南ブロック、高陽地区の2つしか開催されていない。
 - ブロック委員の間で再度開催を促進し

て欲しい。

- 「ブロック会の日」を作り、4ブロックが各会場で開催してはどうか。
⇒2月8日(日)を「ブロック会の日」とする。運営委員会が主体。
場所の確保は幹事会で話をつめる。
- ⑥ 「キリシタン殉教碑」移転費用献金
 - 幟の信徒にどのように呼びかけるか。
 - 顕彰会からの依頼文章と封筒をボックスに入れて、呼びかけていく。
⇒取りまとめメンバーを決める。
- ⑦ 地下聖堂マイクアンプ交換
 - 見積りを取り、発注する。
- ⑧ パイプオルガンの聖堂案内
 - 下から見るだけにしてもらって、聖堂案内では入らないようにしてほしい。
⇒専門家(オルガニスト)がついている場合のみ上がっても良いこととする。

編集後記



仕事柄いろいろな相談を受けます。中には自殺を図られた方もおられます。その方々との最後の会話はなぜかお金の話であったことが、心の中で引っかかっています。人生や生活の価値はお金で決まるのではないけど、私たちの価値観はお金に縛られつつあるのではないかと思います。不況や派遣社員の契約打ち切りなど暗いニュースが流れる毎日で、迷い、悩む方が増えると思いますが、自身の価値観を見失うことがないように、祈らずにはられません。(ひ)

